

総合診断

この「決算診断提案書」では、企業を人間の身体に見立てて、御社の経営体力を診断し、今期検討すべき重点課題が提案されております。

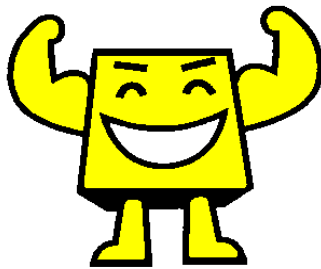
総合得点

前回

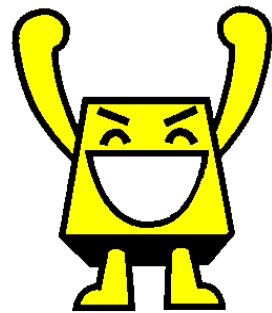
72点

今回

84点



傾向



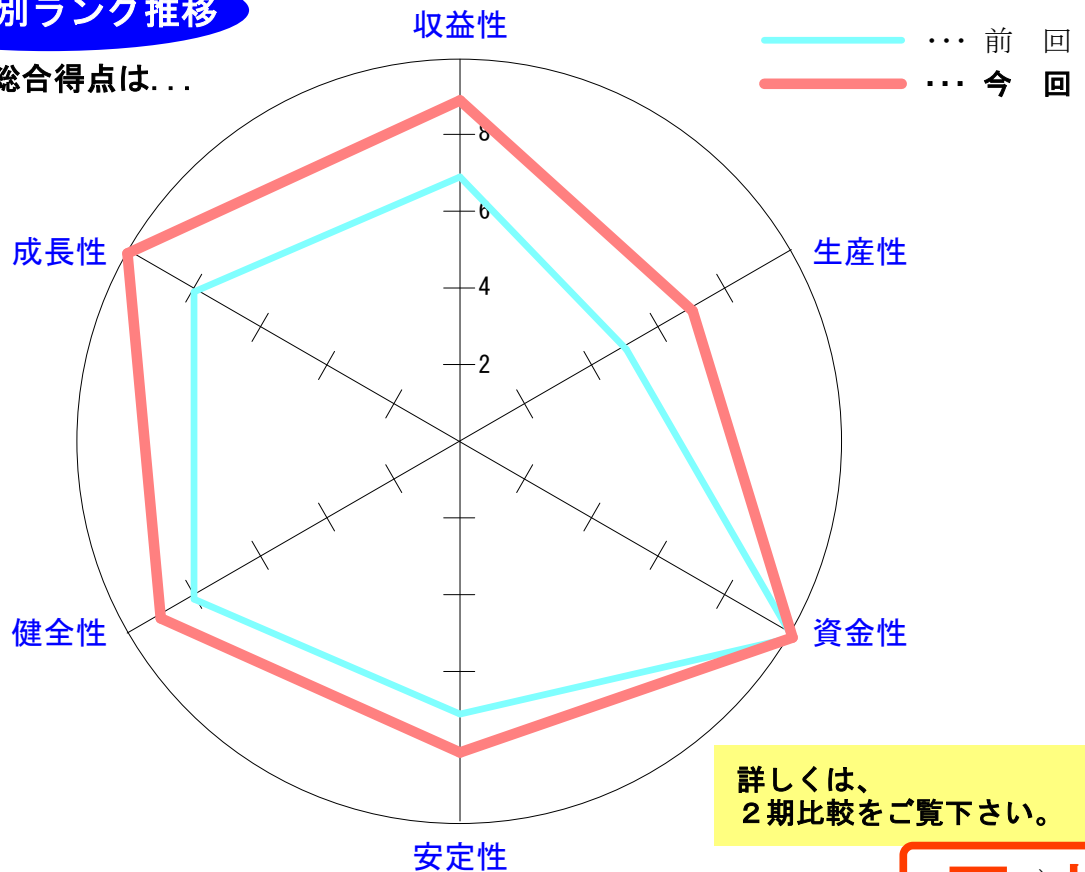
ランク

体力充実型 A

健康優良型 B

6要素別ランク推移

今回の総合得点は...



詳しくは、
2期比較をご覧ください。

見本

経営体カタイプ		得点範囲	10段階による格付
健康優良型	A	90点以上	① 安全性は最高水準にあり、財務内容は極めて優秀である。 ② 経営環境の変化を想定しても、債務償還の確実性は最高水準にある。
	B	80～89点	① 安全性は高い水準にあり、財務内容に懸念は全くない。 ② 経営環境の変化を想定しても、事業が安定的に推移すると思われる。
体力充実型	A	70～79点	① 良好先としてかなり魅力的であり、財務内容は安定した状態にある。 ② 経営環境が大きく変化した場合、安全性を低下させるリスクの可能性がある。
	B	60～69点	① 良好先として確実性は高いが、財務内容に若干心配な要因が出つつある。 ② 経営環境が変化した場合、安全性を低下させるリスクの可能性が高くなる。
体力維持型	A	50～59点	① 当面の債務償還能力に不安はないが、財務内容に心配な要因がある。 ② 経営環境が変化した場合、安全性に十分な注意を要する。
	B	45～49点	① 当面の債務償還能力に不安はないが、財務内容を直視して十分に検討する。 ② 経営環境が変化した場合、債務履行の確実性に十分な注意を要する。
体質改善型	A	40～44点	① 債務償還能力に大きな不安はないが、財務内容の確実性の維持に不安が生じている。 ② 経営が変化し、安全性の維持について懸念が生じている。
	B	30～39点	① 債務不履行に確実に陥るわけではないが、返済の確実性や安全性に不安がある。 ② 経営環境は厳しく、将来的な安全性に不安が生じている。
体力変革型	A	20～29点	① 債務償還についての懸念要因が顕在化しつつあり、不安が多くなっている。 ② 厳しい経営状況にあると考えられ、将来的な安全性に重大な懸念がある。
	B	19点以下	① 債務償還について大きな危険性及び不安要因が認められている。 ② 経営状況はかなり厳しい状況と考えられ、経営が行き詰まる可能性が否定できない。

「攻める力」「守る力」の重要なポイントは

攻める力

守る力

①	収益性 総資本経常利益率	⑥	資金性 総資本回転日数
	分析値 15.2% 80点		分析値 168.6日 100点
②	収益性 付加価値率	⑦	安定性 経営安全率
	分析値 92.0% 100点		分析値 7.6% 70点
③	生産性 労働分配率	⑧	安定性 債務償還可能年数
	分析値 73.8% 40点		分析値 2.1年 100点
④	生産性 固定資産投資効率	⑨	健全性 自己資本比率
	分析値 321.7% 100点		分析値 26.6% 60点
⑤	成長性 経常利益増加率	⑩	健全性 固定長期適合率
	分析値 616.9% 100点		分析値 62.4% 90点

主なポイントの現状は

攻める力

(上記の分析値・得点の現状課題です。)

付加価値率

(顧客満足度の価値)

売上とそれをあげるのに直接かかった仕入や外注費との割合は極めて良好で、会社発展のために必要な粗利は十分得られている。

労働分配率

(人件費と稼ぎ高のバランス)

会社が稼ぎ出した儲けに対し、社員等に対する人件費への配分がやや高く、人件費のウェイトが高くなっている。

経常利益増加率

(経営成果の伸び)

前年に比べて経営活動に対する取り組み効果が大きく表われており、稼ぎ(利益)がかなり増えている。

守る力

(上記の分析値・得点の現状課題です。)

総資本回転日数

(投下資本の売上貢献度)

経営活動として使われたお金を売上として回収するまでの日数は極めて短く、効率よく資金を活用している。

経営安全率

(経営環境への対応力)

赤字に転落するまでの売上高の余裕度をかなり持ち得ており、ある程度余力を持った経営を遂行している。時代性を考えていく。

自己資本比率

(企業生命力の強度)

会社が動かしている資金のうち、返済不要な純資産の部にある金額の割合はやや高く、安全な領域に入ってきている。

見本

御社の2期比較では

攻める力 … 収益性・生産性・成長性
 守る力 … 資金性・安定性・健全性

総合得点

前 回	今 回
72 点	84 点

分析指標		分析項目	分析値	得点	分析値	得点
収益性	①総資本経常利益率	投下資本の利益貢献度	3.5	50	15.2	80
	②付加価値率	顧客満足度の価値	91.5	100	92.0	100
	③売上高営業利益率	本業の営業活動の利益率	2.5	60	7.5	80
	④売上高経常利益率	経営活動の利益率	1.9	60	7.0	70
	⑤売上高支払利息率	金利負担の効率性	0.6	70	0.5	80
					68	○
生産性	①一人当り付加価値	一人当り正味稼ぎ高	2,762.6	30	4,524.2	50
	②一人当り営業利益	一人当り本業活動成果	76.3	50	371.2	70
	③一人当り経常利益	一人当り経営活動成果	57.3	50	346.4	60
	④労働分配率	人件費と稼ぎ高のバランス	84.8	30	73.8	40
	⑤固定資産投資効率	固定資産の利益貢献度	266.4	100	321.7	100
					52	○
資金性	①総資本回転日数	投下資本の売上貢献度	200.7	100	168.6	100
	②受取勘定回転日数	売上代金の回収の早さ	9.2	100	7.5	100
	③棚卸資産回転日数	棚卸資産の足の早さ	3.3	100	2.6	100
	④固定資産回転日数	固定資産の売上貢献度	125.4	70	104.4	90
	⑤支払対受取回転日数比	回収と支払のバランス	0.2	100	0.2	100
					94	△
安定性	①経営安全率	経営環境への対応力	2.0	60	7.6	70
	②借入金安全率	自己資本と借入額のバランス	287.4	50	196.3	60
	③債務償還可能年数	債務償還できる力の強さ	4.8	80	2.1	100
	④借入月商比率	売上高と借入額のバランス	3.8	70	3.0	80
	⑤預金対借入金比率	借入返済の余裕度	26.2	50	44.5	70
					62	○
健全性	①自己資本比率	企業生命力の強度	20.2	60	26.6	60
	②固定比率	自己資本の投資充当度	318.5	40	225.9	60
	③固定長期適合率	長期資金の投資充当度	67.6	80	62.4	90
	④流動比率	短期的支払能力	492.6	100	850.1	100
	⑤当座比率	現在の支払能力	419.9	100	766.9	100
					76	○
成長性	①売上高増加率	売上高の伸び	64.8	100	93.1	100
	②付加価値増加率	稼ぎ高の伸び	61.4	100	94.1	100
	③営業利益増加率	本業成果の伸び	3.7	60	476.6	100
	④経常利益増加率	経営成果の伸び	-6.0	40	616.9	100
	⑤自己資本増加率	自己資本力の強化度	14.9	90	92.9	100
					78	○

※ ランク比較 上…○、同…△、下…●



御社の同業態比較では

攻める力 … 収益性・生産性・成長性
 守る力 … 資金性・安定性・健全性

総合得点

同業態平均	御 社
50 点	84 点

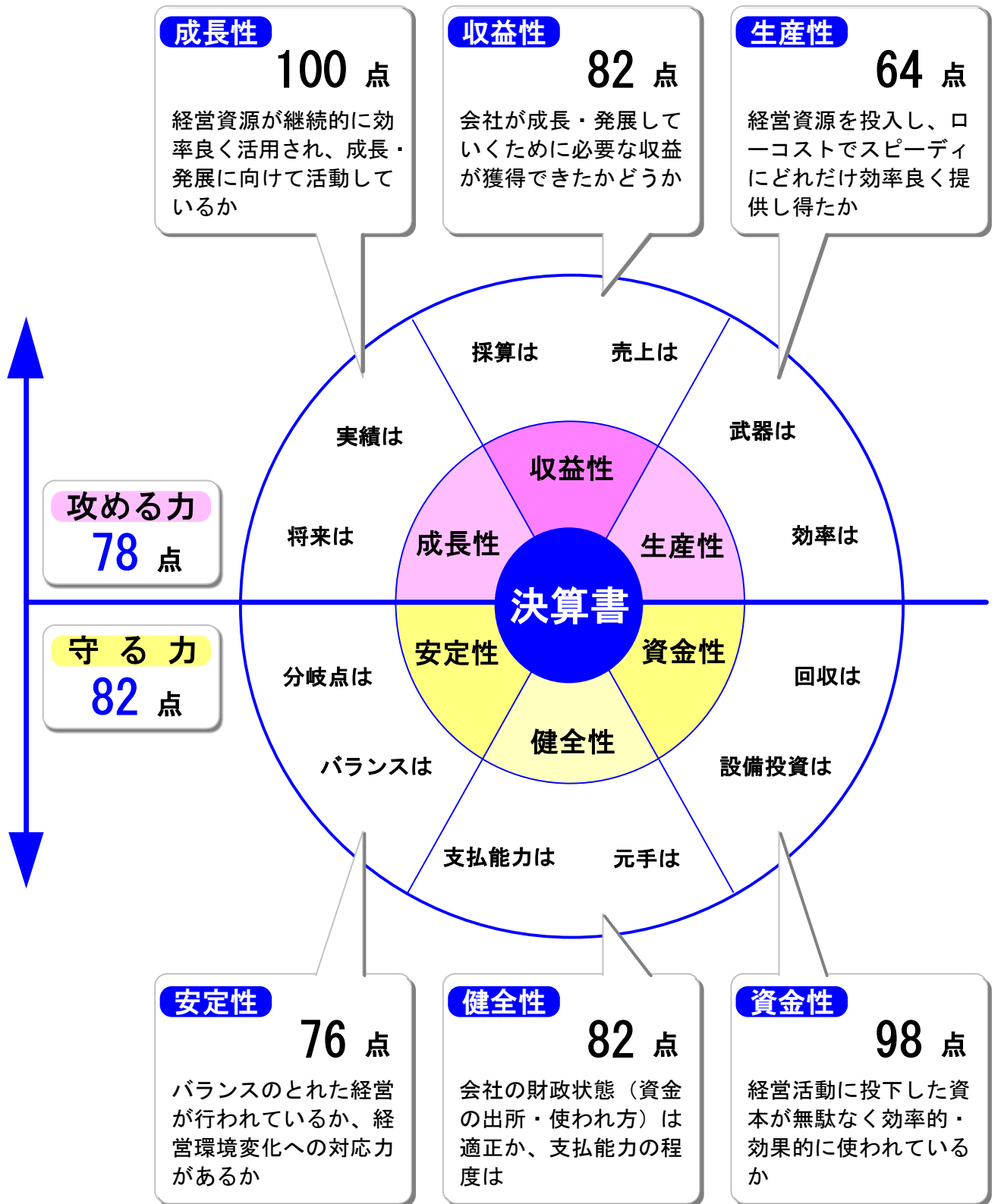
分析指標		分析項目	分析値	得点	分析値	得点
収益性	①総資本経常利益率	投下資本の利益貢献度	3.4	50	15.2	80
	②付加価値率	顧客満足度の価値	52.5	50	92.0	100
	③売上高営業利益率	本業の営業活動の利益率	-4.7	50	7.5	80
	④売上高経常利益率	経営活動の利益率	-4.7	50	7.0	70
	⑤売上高支払利息率	金利負担の効率性	1.9	50	0.5	80
				50	○	82
生産性	①一人当り付加価値	一人当り正味稼ぎ高	5,010.0	50	4,524.2	50
	②一人当り営業利益	一人当り本業活動成果	52.0	50	371.2	70
	③一人当り経常利益	一人当り経営活動成果	66.0	50	346.4	60
	④労働分配率	人件費と稼ぎ高のバランス	66.5	50	73.8	40
	⑤固定資産投資効率	固定資産の利益貢献度	114.5	50	321.7	100
				50	○	64
資金性	①総資本回転日数	投下資本の売上貢献度	265.0	50	168.6	100
	②受取勘定回転日数	売上代金の回収の早さ	50.5	50	7.5	100
	③棚卸資産回転日数	棚卸資産の足の早さ	10.0	50	2.6	100
	④固定資産回転日数	固定資産の売上貢献度	171.0	50	104.4	90
	⑤支払対受取回転日数比	回収と支払のバランス	1.6	50	0.2	100
				50	○	98
安定性	①経営安全率	経営環境への対応力	-3.9	50	7.6	70
	②借入金安全率	自己資本と借入額のバランス	327.5	50	196.3	60
	③債務償還可能年数	債務償還できる力の強さ	10.6	50	2.1	100
	④借入月商比率	売上高と借入額のバランス	5.8	50	3.0	80
	⑤預金対借入金比率	借入返済の余裕度	26.2	50	44.5	70
				50	○	76
健全性	①自己資本比率	企業生命力の強度	17.3	50	26.6	60
	②固定比率	自己資本の投資充当度	271.5	50	225.9	60
	③固定長期適合率	長期資金の投資充当度	105.1	50	62.4	90
	④流動比率	短期的支払能力	151.0	50	850.1	100
	⑤当座比率	現在の支払能力	114.4	50	766.9	100
				50	○	82
成長性	①売上高増加率	売上高の伸び	-5.4	50	93.1	100
	②付加価値増加率	稼ぎ高の伸び	-5.6	50	94.1	100
	③営業利益増加率	本業成果の伸び	-18.2	50	476.6	100
	④経常利益増加率	経営成果の伸び	4.8	50	616.9	100
	⑤自己資本増加率	自己資本力の強化度	4.0	50	92.9	100
				50	○	100

※ 同業態平均の数値は、各種リサーチデータに中小企業の動向を加味したものを使用しています。
 ※ ランク比較 上…○、同…△、下…●



「攻める力」「守る力」から見た御社の診断

「攻める力」「守る力」とは



「攻める力」「守る力」から見た御社の診断

御社の位置

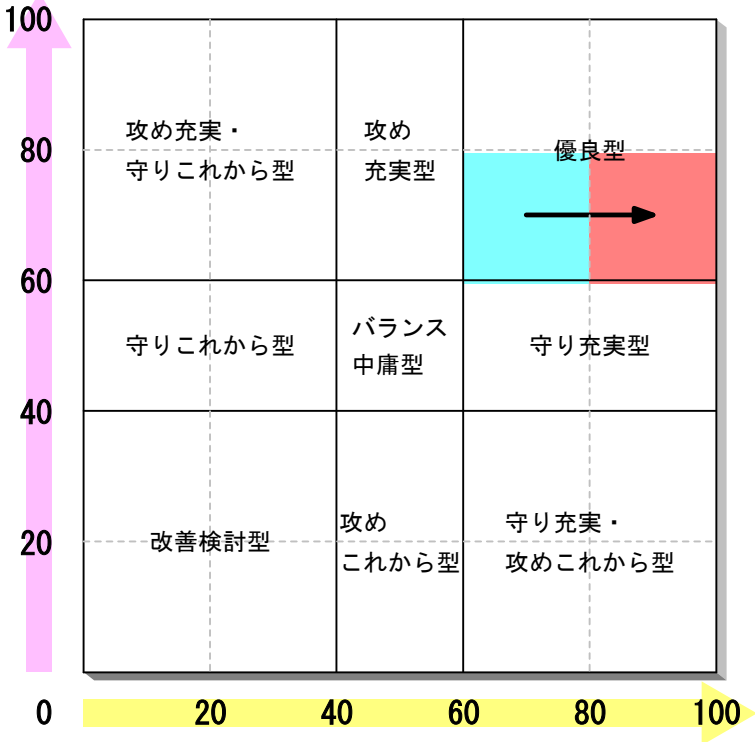
攻める力は、次の要素から診断しています。

収益性 . . . 40%
生産性 . . . 40%
成長性 . . . 20%

100%

攻める力

前回 63 → 今回 78



守る力

前回 72 → 今回 82

守る力は、次の要素から診断しています。

安定性 . . . 50%
健全性 . . . 30%
資金性 . . . 20%

100%

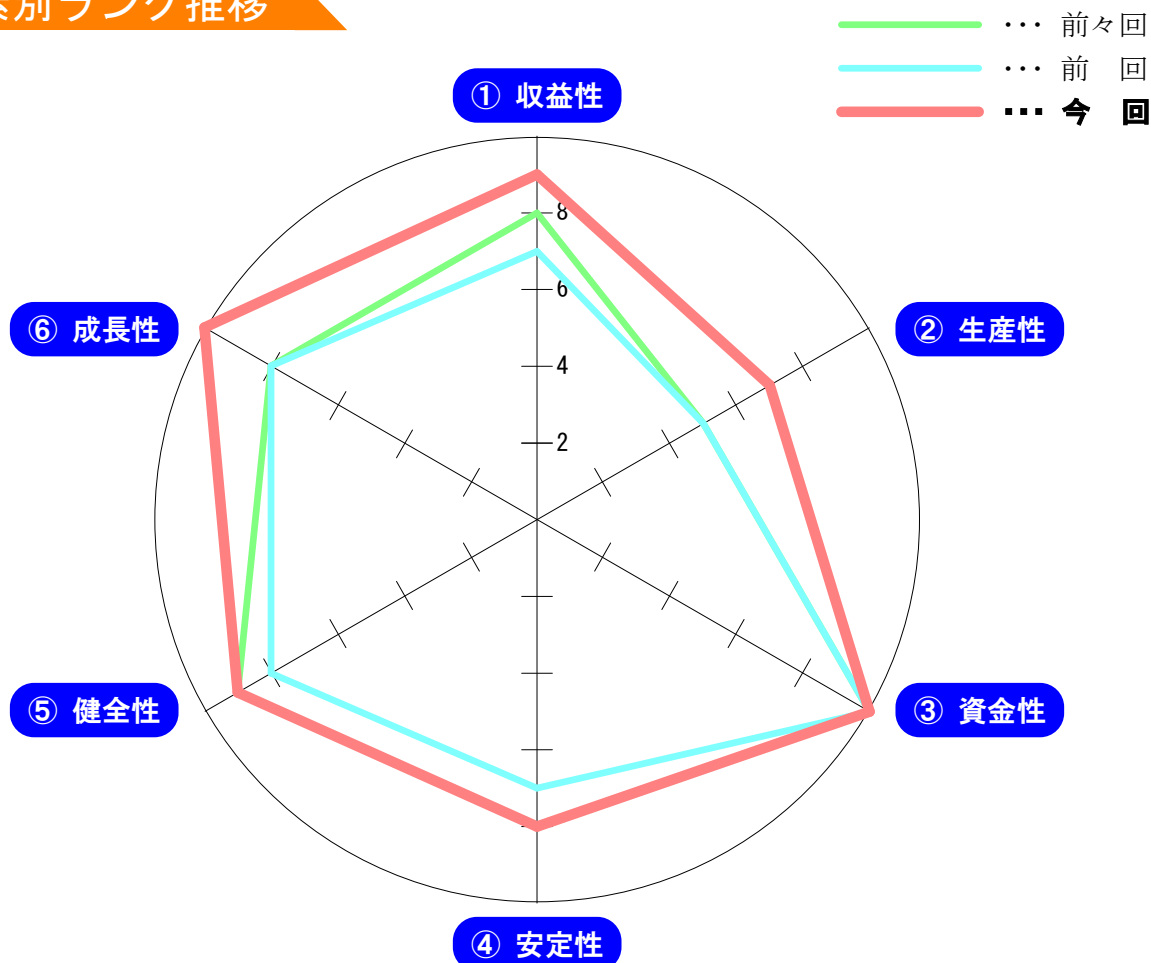
御社のタイプ

優良型

「攻める力」「守る力」どちらも高い水準にあり、大変高く評価できます。前回に引き続いて、このような高い評価を得たことは、大変素晴らしいことであると考えてよいと思います。

6 要素からみた傾向

要素別ランク推移



	① 収益性	② 生産性	③ 資金性	④ 安定性	⑤ 健全性	⑥ 成長性
前々回	8	5	10	8	9	8
前回	7	5	10	7	8	8
今回	9	7	10	8	9	10

今回の決算では

- ① [**収益性**] は、非常に良く、前回に比してやや上昇傾向にあります。
- ② [**生産性**] は、やや良く、前回に比してやや上昇傾向にあります。
- ③ [**資金性**] は、非常に良く、前回と同レベルを維持しています。
- ④ [**安定性**] は、非常に良く、前回に比してやや上昇傾向にあります。
- ⑤ [**健全性**] は、非常に良く、前回に比してやや上昇傾向にあります。
- ⑥ [**成長性**] は、非常に良く、前回に比してやや上昇傾向にあります。

[生産性]からみた分析値測定表

要素別
得点

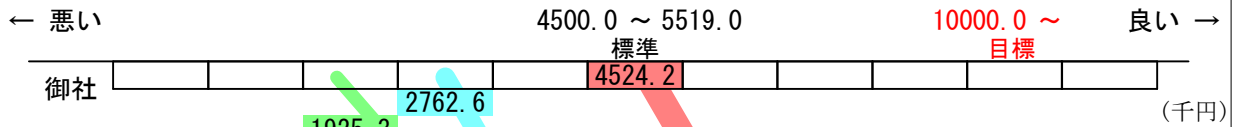
64

ランク

7

① 一人当たり付加価値

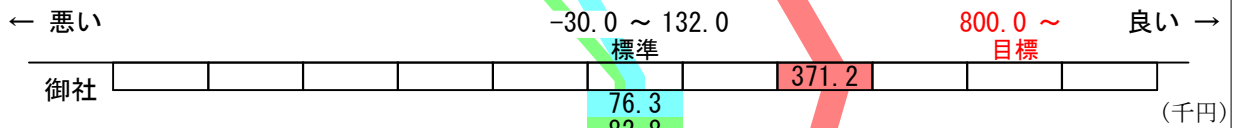
得点 50 ランク 5



社員一人一人が効率的に稼ぐ仕事をある程度こなしており、会社の活性化状況はそこそこになっており、生産性上昇に注力していく。

② 一人当たり営業利益

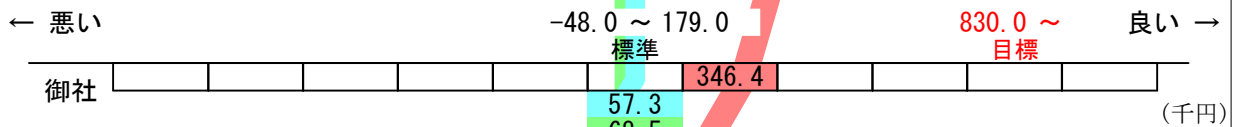
得点 70 ランク 7



収益の方が商売をするためにかかった費用に比べかなり大きく、社員一人当たりの営業活動の成果（稼ぎ）は良好になっている。

③ 一人当たり経常利益

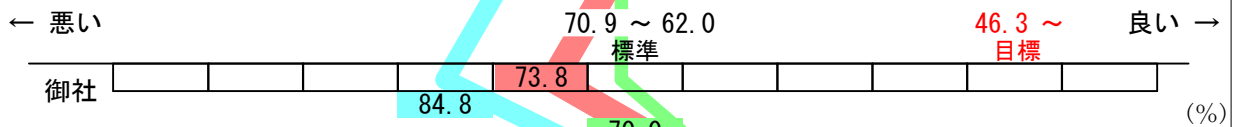
得点 60 ランク 6



事業活動において社員一人一人の利益に対する貢献度は高く、経営活動の実質的な稼ぎ状況もある程度のものになっている。

④ 労働分配率

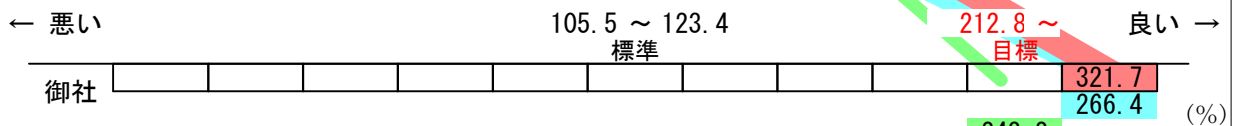
得点 40 ランク 4



会社が稼ぎ出した儲けに対し、社員等に対する人件費への配分がやや高く、人件費のウェイトが高くなっている。

⑤ 固定資産投資効率

得点 100 ランク 10



設備等の固定資産が効率良く稼働しており、その固定資産が生み出している利益（儲け）は高いものになっている。

生産性を高めるための キーワード

1. 自動化・省力化設備の有効活用を図る
2. 非効率設備や遊休資産の減少努力をする
3. 必要最低限の人員配置の検討
4. 人件費は付加価値とのバランスで決める
5. リース方式での設備利用を検討する

... 今回
... 前回
... 前々回

見本

[健全性]からみた分析値測定表

要素別
得点

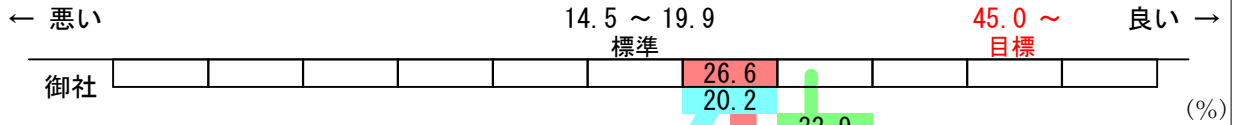
82

ランク

9

① 自己資本比率

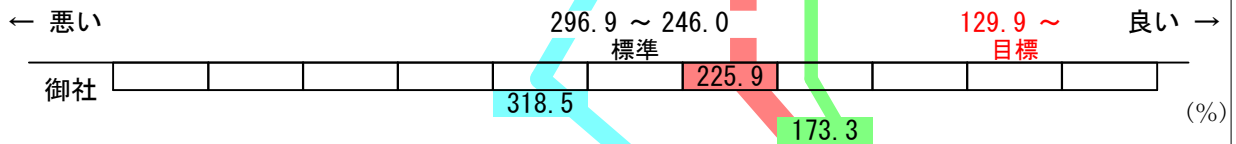
得点 60 ランク 6



会社が動かしている資金のうち、返済不要な純資産の部にある金額の割合はやや高く、安全な領域に入ってきている。

② 固定比率

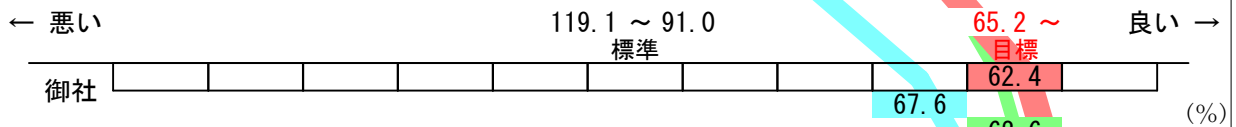
得点 60 ランク 6



長い間現金としては帰ってこない性質である固定資産を、利子の支払いの必要がない自己資本（自分のお金）でかなり賄っている。

③ 固定長期適合率

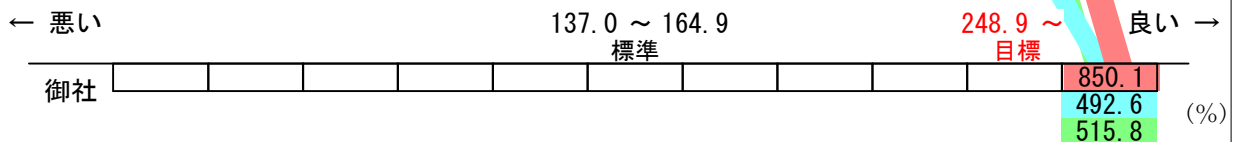
得点 90 ランク 9



返済不要な自己資本と1年を超えて返していく長期借入金で、設備等の固定資産をしっかり賄っており、設備投資状況に無理がない。

④ 流動比率

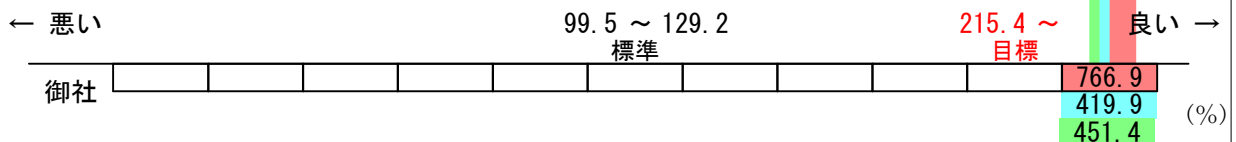
得点 100 ランク 10



1年以内に支払うべき負債に対して、1年以内に現金化出来る資産を十分備えており、期限内に返す力をかなり持っている。

⑤ 当座比率

得点 100 ランク 10



1年以内に支払うべき負債に対して、今すぐ現金化し、支払えるお金を十二分に備えている。（当座資産には在庫を含まない）

健全性を高めるための キーワード

1. 不良資産・遊休資産の圧縮を図る
2. 増資・内部留保策を計画的に推進する
3. 不良在庫やデッドストックを処分する
4. 売上債権と借入債務とのバランスをとる
5. 短期資金から長期安定資金への移動

... 今回
... 前回
... 前々回

見本

[成長性]からみた分析値測定表

要素別
得点

100

ランク

10

① 売上高増加率

得点

100

ランク

10

← 悪い

-10.4 ~ -0.5

標準

18.8 ~

目標

良い →

御社

93.1

64.8

30.7

(%)

前年に比べて売上高を増やす取り組み効果が大きく表われており、売上高の増加にかなりつながっている。

② 付加価値増加率

得点

100

ランク

10

← 悪い

-10.8 ~ -0.5

標準

21.2 ~

目標

良い →

御社

94.1

61.4

31.2

(%)

前年に比べて仕入・外注コスト削減が功を奏し、利益を増やす稼ぎをしっかりと行なっている。

③ 営業利益増加率

得点

100

ランク

10

← 悪い

-31.1 ~ -5.4

標準

55.3 ~

目標

良い →

御社

476.6

-36.3

3.7

(%)

本業活動が前年に比べてかなり活発になり、その結果、稼ぎ（利益）が十分に増えている。時代性を考慮する。

④ 経常利益増加率

得点

100

ランク

10

← 悪い

-5.2 ~ 14.6

標準

74.3 ~

目標

良い →

御社

616.9

-6.0

-40.0

(%)

前年に比べて経営活動に対する取り組み効果が大きく表われており、稼ぎ（利益）がかなり増えている。

⑤ 自己資本増加率

得点

100

ランク

10

← 悪い

2.5 ~ 5.4

標準

14.5 ~

目標

良い →

御社

92.9

14.9

18.8

(%)

前年に比べて自己資本（純資産の部）の金額の伸びは順調で、企業体質はかなり強くなっている。更なる体力増強を実践する。

成長性を高めるための
キーワード

1. 地域オンリーワンへの戦略の実行
2. 中期的視点に立ってビジョンを確立する
3. 社員への経営理念の浸透を図る
4. 商品・サービスの開発力を強化する
5. 社員の教育・訓練を計画的に実施する

■ ... 今回
■ ... 前回
■ ... 前々回

見本